

2020年5月16日

<詩編40章1～3節>

私は切なる思いで、主を待ち望んだ。

主は私のほうに身を傾け、私の叫びをお聞きになり、私を滅びの穴から、泥沼から引きあげてくださった。そして私の足を巖の上に置き、私の歩みを確かにされた。主は、私の口に新しい歌、われらの神への賛美を授けられた。多くのものは見、そして恐れ、主に信頼しよう。

-----

救われる前、自分にとっては、大変な状況だった。何とか乗り越えたいと必死な思いにもなる。ただ自分で、もがいても何も進まない。見えない何かに祈り求めていた。心の叫びを聞いてくださったことが後でよくわかった。渦中ではわからないこともある。

主は私の方に身を傾け、とある。耳を傾けただけではなく、身を傾けてくださった。

叫びをお聞きになり、泥沼から引き揚げるためには、身を寄せなければ、引き揚げられなかったから。

そして、私の足を主の御言葉の固い土台の上に今、置いてくださっている。主との関係をいただき、賛美することができる。多くの人は、今の困難な状況を通して、主を賛美している人の姿を通して、主を見て、主を知ることができる。